第６９号
2021/4/
編集責任者　田邊　朋之

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町２番地
TEL　0152-25-3792
FAX　0152-25-3793

新年度にあたり

盟友の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より農民連盟の活動に際しご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

第50回清里町農民連盟定期総会に、各営農集団代議員の皆様、そしてご来賓の皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。また、提出いたしました全議案について、ご承認可決頂き誠にありがとうございました。コロナ渦ではありましたが、対策を取り、皆さんにご協力を頂き開催することが出来ましたことを重ねてお礼申し上げます。

さて、本年度も地区別懇談会等で頂いた町内対策の課題、また国内での課題や国際貿易の問題があります。TPP11・欧州とのEPA、日米貿易協定は既に発効し、政府はさらなる貿易交渉RCEP協定を今国会で承認を目指しています。発効してしまえば世界の人口やGDPのおよそ3割を占める巨大な自由貿易になります。輸入での重要5品目（米・麦・牛肉、豚肉・乳製品・甘味資源作物）は関税撤廃、削減は対象外になりましたが輸入増加による影響があると思われます。また、中国が米国のトウモロコシを大量に輸入成約しているためトウモロコシの高騰、米国の大豆の期末在庫率が過去最低水準になり配合飼料が値上げをしている状況です。日本は輸入に頼っているので世界の動きで多大な影響がありますが、少しでも世界の動きに影響を受けないよう国は施策を建てなければなりません。

昨年度は新型コロナウィルスの影響で活動が制限され、思うように動けない状況でしたが、この状況は何年か続く可能性があると思いますので対策を取りながら今までと変わりなく、更なる市場開放に断固反対を求めていき、そして町内外の課題も盟友の皆様と情報交換をしながら関係機関と共に解決できるよう進めて行きたいと思います。今後も変わりなくよろしくお願いいたします。

最後になりますが、盟友皆様が事故なく健康で過ごせますことと、本年も豊穣の出来秋を迎えられますことをお祈り申し上げ新年度の挨拶とさせて頂きます。

二俣　清史

清里町役場 産業建設課との意見交換を開催しました

清里町農民連盟では、町内各地でエゾシカ等の農作物被害が拡大するほか、野鳥による家畜伝染病への不安が深刻化していることから、地区別懇談会で盟友から寄せられた意見を町長との意見交換会等で対策の強化を要請してきました。

町では、鳥獣被害防止計画を3年ごとに見直し被害軽減対策を講じています。令和2年度から新たな計画年度がスタートした中で、エゾシカ捕獲頭数を令和2年度 150頭、令和3年度250頭、令和4年度300頭と大幅に増頭しています。この計画頭数の設定の考え方や1月開催の地区別懇談会での盟友からの意見を反映させる為に、2月26日に町の産業建設課を招いて「鳥獣被害対策に関する意見交換会」を開催しました。

町のエゾシカ駆除の基本的な考え方は、従来通り猟友会での銃器、ワナ等による捕獲が中心であり、予算確保によって捕獲頭数の上限を引き上げることが可能となった。担い手の確保を含む捕獲体制の整備を進め、目標頭数の捕獲を行っていきたいとの説明がありました。また、大型の囲いワナについては、現在は設置に向けて調査の開始を検討している段階ではあるが、近隣市町村の実例を踏まえて慎重に進めていきたいとの考えを示しました。

農連からの意見としては、計画捕獲数の実現と防風保安林内を出入りしているエゾシカの駆除についても、南部森林管理署などとの協力体制の構築による被害軽減対策を進めてもらう等、合わせて要請を行いました。また、捕獲及び捕獲後の処理についても先進地の事例やアドバイザーの活用など有効的な手段を取り入れ、鳥獣被害対策をさらに進めてもらい、今後は情報の共有や情報提供など定期的な懇談の場を設けていくことを町と確認をしました。

その他、シカ以外のクマ、キツネ、ウサギの対策強化や鳥獣被害防止計画のメニューに野鳥も含めることを要請し、町内各地での鳥獣被害軽減対策をさらに前進させてもらうようにお願いしました。

園木　昭寛

地区別懇談会を終えて

1月13日から3日間の日程で地区別懇談会を開催させて頂きました。昨年から続く新型コロナウイルスの感染防止対策のご協力の中で、多くの盟友の皆さんに御参加を頂いた事にあらためてお礼を申し上げます。地区別懇談会の開催については盟友の意見を反映し、活発な農民運動を推進するという農民連盟の活動にとって最重要項目となっております。今年度の農民連盟の組織活動は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で十分な運動を行うことが出来ない状況であった一方で、組織で長年取り組んできた運動の成果等を、懇談会の中で盟友の皆さんに報告が出来た事は、農民連盟の活動をより一層のご理解を頂ける一年となったのではないかと思います。

懇談会では、前年からの継続課題を整理しつつ、新たに進展があった防風保安林対策や被害の軽減対策が思うように進まない鳥獣被害対策、道路の維持管理の推進などを中心に、今後の運動への具体的なご意見を盟友の皆さんから沢山頂くことが出来ました。地域や業態で抱える問題は様々で、特に鳥獣被害については畑作、酪農・畜産の共通の課題となっています。今後はさらに一歩踏み込んだ要請が必要となります。また、ワナによる捕獲に興味を持たれている盟友さんも多く、捕獲後の処理についても今後の課題となってきます。積極的に鳥獣対策に取り組んでいる盟友の方々から意見を聴くなど、現状にあった具体的な対策を推進していかなければなりません。

甜菜についての意見、要望が非常に多くなっている状況にあります。買入基準についても30年以上前の取引ルールが現在の品種にあっているのか、チョッパー等の普及による作業形態の変化の中で適切な査定が行われているのかを疑問視する意見が多くあります。今後の重要な課題の一つとして、情報の収集や他糖業の現状を把握するためにも広域立会の実現を含め、適正な取引が行われているのかを早期に把握する必要があると考えています。

基本農政関連ではコロナウイルス感染拡大の影響で、中央への運動が厳しい状況の中でリモート要請や文章でのやり取りでは要請内容がしっかりと伝わらなく代表者数名での要請では見た目の弱さがあるとの意見もあります。様々な場面に於いて対面からオンライン化が進んでいく現在であっても、中央への団体要請行動の推進を北見地区、道農連に対し清里町農民連盟としても意見を言っていかなければならないと思います。また、運動している姿を盟友により見せて欲しいとの意見もありました。組織としても活動の見える化が重要だと考えます。盟友の皆さんへ周知も含めて、組織全体で取組んでいきたいと思います。

まとめになりますが、今回の地区別懇談会では、盟友の皆さんから貴重なご意見を沢山頂くことが出来ました。皆さんから頂いたご意見は今後の農民連盟の活動に反映させて頂きます。また、地区別懇談会で伝えきれなかったことなどがあれば、地元執行委員さんを通してでもよろしいのでご意見を頂きたいと思います。

園木　昭寛



編集後記

田邊です。「エヴァンゲリオン」って聞いたことありませんか？1995年に始まった日本のテレビアニメなのですが25年の物語がとうとう3月に劇場版で完結したんです。その名も「シン・エヴァンゲリオン」。

監督は庵野秀明。庵野さんは「シン・ゴジラ」の監督としても話題になりました。次の作品は「シン・ウルトラマン」「シン・仮面ライダー」らしいです。まだまだコロナに影響を受けている世界情勢ですがワクチンが広まりコロナが終息したならばきっと世界は「シン・世界」、「シン・社会」となりコロナがなかった時とは大きな社会変化(リモートワーク等の広がりなど)が起こると予想されています。農業情勢や農業業界も昭和から平成の変化の何倍もの速度で変わっていく可能性があります。まさに「シン・農業」の始まりかもしれません。今年度も盟友の皆さんに少しでも役立つ情報や農連の活動をいち早くお伝えできるよう広報部一同全力をつくしていきますのでよろしくお願いします。